

1

January

- 5 [土] プラットワンコインコンサート 河合雪子『感じる、フルートの魅力』●PLATアートスペース
- 6 [日] 第6回桜丘高等学校ダンス部自主公演「The Party」●PLAT主ホール
- 6 [日] 松元ヒロ ソロライブ●PLATアートスペース
- 11 [金] 阿川佐和子 チャリティー講演会●PLAT主ホール
- 12 [土] 東三河うたの学校 15周年コンサート「ここはふるさと」●PLATアートスペース
- 13 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 オープニングイベント 宮本信子 新春シネマ&トーク●PLAT主ホール
- 14 [月・祝] 第五回新春 天狗連名人会?●PLATアートスペース
- 19 [土] 志多ら 30周年ツアー 豊橋公演●PLAT主ホール
- 19 [土]—20 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映●PLATアートスペース
- 26 [土] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 特別企画
『パーフェクト 王の凱旋(インターナショナル版)』王を称えよ!豊橋でも称えよ!●PLATアートスペース
- 26 [土]—27 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映●PLATアートスペース
- 28 [月]—30 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第270回例会 イッツフォーリーズ公演 ミュージカル『死神』●PLAT主ホール

2

February

- 2 [土]—3 [日] 平成30年度東三河高等学校演劇合同発表会●PLAT主ホール
- 3 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 特別企画
民謡クルセイダーズ ライブ!〜民謡しなげりや意味ないね in Toyohashi〜●PLATアートスペース
- 6 [水] プラットワンコインコンサート
Le Bois Quartet『カルテットの調べ〜ドイツ音楽にのせて〜』●PLATアートスペース
- 9 [土]—10 [日] 平成30年度東三河高等学校演劇合同発表会●PLAT主ホール
- 9 [土]—10 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映●PLATアートスペース
- 15 [金]—16 [土] PLAT 小劇場シリーズ 木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」●PLAT主ホール
- 16 [土]—17 [日] 第17回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映●PLATアートスペース
- 24 [日] 岸田武士ピアノリサイタル●PLATアートスペース

表紙/木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)
撮影:宮田明里
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成30年12月発行 35号(隔月発行)



PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2019年1月-2月
vol. **35**



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

プラットニュース

CONTENTS

表紙 木ノ下裕一
木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」
2
INTERVIEW:1
木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」
宇宙と、人が呼応する物語です。
木ノ下裕一
4
TOPICS:1
プラットワンコインコンサート[特集]
6
TOPICS:2
ナマのオーケストラに触れる
「ドキドキ・わくわく」が彩る
2019年のニューイヤー。
「東京フィルハーモニー交響楽団
ニューイヤーコンサート
〜オール・チャイコフスキー・プログラム〜」
8
PURA PURA
パラボの寄り道ぶらぶら
豊橋でつくった「ねこはしる」
桑原裕子
10
INTERVIEW:2
障がいのある人と共に創る演劇の
ワークショップ&レクチャー
ワークショップに参加して。
平田 満
12
INFORMATION
PLAT主催公演情報
14
MEMORY
「ザ・空気」「ザ・空気ver.2」を
連続上演した、
作・演出の永井愛さんに
インタビュー
15
SUPPORT
TICKET CENTER
16
PLAT CALENDAR





木ノ下裕一[きのした・ゆういち] / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

往復しながらドラマを紡いでいく糸井さんの手腕は絶対に必要だと思っていました。

例えば、主人公の俊徳丸という青年が、沈む夕日を眺めながら極楽浄土を見えない目で見ようとするシーンがある。そこで、ある種宇宙的な体験をする。そのとき、俊徳丸が見た宇宙にバンッと飛ばせなければ、お芝居としておもしろくない。また糸井さんは男女のカップルを描くのが上手い。糸井さんの持ち味です。物語では継母が義理の息子に恋をして追っかけまわすのですが、ほぼ登場人物がカップル。俊徳とその許嫁の浅香は恋愛真っ盛りのカップル。家来の入平夫婦は中年の働き盛り。玉手の父母は老夫婦。若者、中年、老人という三組の夫婦が最後の場面で全員揃う。その中で、玉手御前がシングルで死んでいく。また、糸井さんは群像も得意ですし、様々な理由で『摂州合邦辻』が合うと思ってお願いしました。

矢作——木ノ下さんは、作品ではどんな役割を務められるのですか。

木ノ下——まず演目と演出家を選びますが、今回は、

糸井さんのパートナーですね。原作の古典台本を、糸井さんバージョンに再編集します。それが補綴という作業です。同時進行で、糸井さんが原作を読みつつ、先に楽曲や原作にないシーンなどを書きます。ある程度書き上がったら、お互いに執筆部分を交換して、また練っていく。そうやって一緒に台本作りを一からやろうとしています。そういう意味で、今までで一番密な演出家との創作になると思います。

矢作——木ノ下さんと糸井さんは今(2018年8月)、一週間ブラットに滞在して脚本作りのための合宿をされていますが、その間に完成しそうですか。

木ノ下——さすがに無理ですね。でも、全体の構成が決まって、細かい設計図が完成しつつあります。お互い、この後に自宅に持ち帰って執筆ができるころまでは進みました。合宿中では、まず原作を丁寧に読むところからはじめました。僕が原作を数行ずつ音読しては、「ここは、こういう背景があって」と口頭で注釈を加えていく。それを糸井さんがメモしてくれる。ちょっと進んでは「どうですかね」「いや、このこのセリフおもしろいね」と意見交換し、また音読し始めるというのを、三日かけて延々やりました。

矢作——まるで教授と大学院生の対一のゼミですね。木ノ下——ほんとに研究会ですね。そういう話をしながら、舞台美術をどうしようとか同時進行でどんどん発想が浮かんでくる。アイデアがどんどん出て来て、それを拾い、メモ取りながら。また作品の話、原作の話を繰り返しています。すごく豊かな時間で、疲れないですね。と言いながら、昨日は二人とも電気付けたまま倒れていました。アハハ(笑)。

矢作——木ノ下歌舞伎は次のフェーズなのですね。木ノ下——そうです。木ノ下歌舞伎がこれまで関わって

木ノ下裕一「きのした・ゆういち」 / 木ノ下歌舞伎 主宰
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談—通し上演—』『心中天の網島』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。平成30年度大桑文化奨励賞を受賞。渋谷・コクーン 歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

矢作——木ノ下歌舞伎では毎回、演出家を迎えられるんですが、今回の演出家は糸井幸之介さんですね。

木ノ下——私は糸井さんの作品のファンなんです。世界をすべてまるまる、人間の営みも、それを包み込む社会も、そのまた向こうにある大きな宇宙まで、ミクロなものからマクロなものまで幅を往復しながら描いていく、すごい作家です。でも古典も人間を描きながら、それを内包する社会の姿を描き、大きな宇宙観に発展していく。そういう意味で歌舞伎や文楽と相性がいいと思いました。

矢作——今回の『摂州合邦辻』を糸井さんに、と思われた理由をお聞かせください。

木ノ下——糸井さんの過去の作品で説経節の『さんせう太夫』を原作にした『安寿と厨子王』という作品があります。糸井さんと女優さんの説経節の現代化みたいな二人芝居で、糸井さんがギターを持ちながら語るのです。歌とお芝居が同時に併走したり、芝居に集中したり、また芝居かなと思ったら歌へと変化していく。『摂州合邦辻』も説経節が原作ですから、歌と芝居を

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化プロデューサー

自分以外のものを守りたいと思った時、はじめて人は、宇宙と匹敵するくらい大きな力を得ることができのかもしれない。

監修・補綴・上演台本
木ノ下裕一

2月15日[金]19:00開演
16日[土]14:30開演
作=菅専助、若竹笛躬 / 監修・補綴=木ノ下裕一
上演台本=糸井幸之介、木ノ下裕一 / 演出・音楽=糸井幸之介
出演=内田慈、田川隼嗣、土居志央梨、大石将弘、伊東沙保、金子岳憲、西田夏奈子、武谷公雄ほか
会場=PLAT主ホール

PLAT 小劇場シリーズ

木ノ下歌舞伎 「糸井版 摂州合邦辻」

生と死、聖と俗、都市に生きる人々の剥き出しの「生」の音楽劇

プラットフォームコインコンサート [特集]

ワンコイン=500円で楽しめる、若手音楽家たちの上質なコンサート

コンサート情報は14頁(プラットフォームコインコンサート)・13頁(INFORMATION)をご覧ください。

2018年12月19日[水]14:00開演

トリオ・グランツ
Trio Glanz

『音の三原色~四季を巡って~』

<プロフィール>

2018年5月に結成。愛知県立芸術大学の二年生と三年生で構成される。学内オーディションにおける演奏会に出演し、ヨハネス・ブラームスの『クラリネット三重奏曲 イ短調 作品114』を演奏。グループ名にある「Glanz」はドイツ語で輝きや映えるという意味があり、キラキラした音楽、艶のあるサウンドを意識して活動している。

<出演者よりメッセージ>

春夏秋冬をイメージした四曲を演奏します。それぞれの季節の温度、色、気持ちを音楽から感じていただけたらと思います。クラリネット、チェロ、ピアノの編成は演奏される機会は多くはありませんが、楽器の相性がとても良いと感じます。3つの楽器が生み出す新しい音色、ハーモニーの美しさと幅広さをお楽しみください。

<劇場スタッフの一押しコメント>

自分たちにしか出来ないことをしよう、という若々しく情熱的なエネルギーに満ちた3人です。表情豊かで深みのある演奏が彼らの魅力。この珍しいトリオの編成で多くの名曲をドラマティックに紹介してくれることでしょ。(事業制作部 石田晶子)

2019年1月5日[土]14:00開演

ル・ボワ・カルテット
河合雪子

『感じる、フルートの魅力』

<プロフィール>

岡崎市出身。第67回全日本学生音楽コンクール名古屋大会高校の部 第1位。第2回刈谷国際音楽コンクール一般の部最優秀賞。セントラル愛知交響楽団と協奏曲を共演。愛知県立明和高等学校音楽科を経て、現在、東京藝術大学音楽学部器楽科4年に在学中。

<出演者よりメッセージ>

今回はフルートの魅力を存分に感じて頂けるよう、フルートの定番とも言えるプログラムを組みました。お馴染みのビゼーのオペラによる『カルメン幻想曲』や、フルート作品の逸品とも言えるヴァイデル作曲『組曲』、また、タンゴで有名なピアソラ作曲『ブエノスアイレスの春』など、フルートに馴染みの有る方も無い方もお楽しみ頂ける内容です。

<劇場スタッフの一押しコメント>

素晴らしいテクニックと音色の艶やかさ。余韻や間の取り方にも良い緊張感があり、非常に高い芸術性を併せ持つ演奏者です。チャーミングな彼女の人柄が伝わってくるような、フルートの柔らかく優美な音色に包まれて新年を清々しく迎えてはいかがでしょうか。(事業制作部 石田晶子)

2019年2月6日[水]14:00開演

ル・ボワ・カルテット
Le Bois Quartet

『カルテットの調べ ~ドイツ音楽にのせて~』

<プロフィール>

2015年4月、愛知県立芸術大学の学生4人で結成。室内楽を花崎薫、小林道夫、百武由紀の各氏に師事。第3回宗次ホール弦楽四重奏コンクールに出場し、原田禎夫、ヴァーツラフ・レメシュ、百武由紀の各氏のマスタークラスを受講。「Le Bois」はフランス語で「小さな森」の意で、季節によって様々な表情を見せる愛知県立芸術大学の自然豊かなキャンパスをイメージしている。

<出演者よりメッセージ>

今回の演奏会では、弦楽四重奏という編成で様々なクラシックの名曲を演奏致します。例えば、皆様の聞き馴染みのある曲であったり、隠れた名曲であったり。そして是非とも、大学で培ってきた「アンサンブル」を、劇場で身近に感じて頂きたい存じます。

<劇場スタッフの一押しコメント>

クラシックのみならず、現代的な曲にも挑戦するグループ。4人の息もよく合い、弦楽器の良さが伝わる重厚感のある音楽を奏でます。粋でリズムカルな音楽づくり、表情の豊かな演奏が特徴で、聴いているこちらも揺り動かされることでしょう。(事業制作部 高田装子)

2019年3月29日[金]11:30開演

松本純奈

『イタリア音楽の調べ』

<プロフィール>

蒲郡市出身。第18回日本ジュニア管打楽器コンクールオーボエの部高校生コース第1位他受賞。これまで堀かづみ、寺島陽介、吉井瑞穂の各氏に師事。愛知県立明和高等学校音楽科を経て、現在東京藝術大学2年在学中。

<出演者よりメッセージ>

世界一難しい木管楽器としてギネスブックに登録されているオーボエ、そんな楽器を作曲家達がどのように活かして曲を書いたのか。今回は1650年頃~1920年頃までの様々な時代のイタリア人作曲家がオーボエの為に書いたオリジナル作品を取り上げ、オーボエの魅力に迫る演奏会を行います。

<劇場スタッフの一押しコメント>

若いながらも堂々とした演奏。オーボエの軽快かつ優しい音色で楽曲を豊かに表現し、彼女の技術力の高さがうかがえます。オーボエという楽器はまだそこまでメジャーではありませんが、彼女の演奏を通じて、オーボエの魅力が一人でも多くの人に伝わるであろうと期待します。(事業制作部 高田装子)

「若手音楽家に活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を提供する」というコンセプトのもと、二〇一四年にスタートして五年目を迎えます。上質なコンサートを気軽に楽しめるよう、入場料五〇〇円・上演時間六〇分で行い、コンサート

初心者や音楽に詳しくない方でも楽しめる内容づくりに努めています。おかげさまでファンのお客様も少しずつ増え、当劇場の音楽プログラムとして恒例の公演になりつつあります。一方、プロを目指す音楽家にとって(右頁上)

(左頁より)日々の練習と同じくらい大切なのが、聴衆の前での演奏経験。この企画は若手音楽家への支援・育成の側面も持ち合わせています。「三五歳以下」グループの一名以上が三河地域出身もしくは在住」という条件の下、毎年オーディションを実施し、選り抜かれた実力のある音楽家たちが出演します。

今年度合格者もフレッシュさと、人を惹きつける実力と感性を持ち合わせた、今後の活躍が楽しみな音楽家たちが揃いました。ぜひコンサートに足をお運び頂き、ともに音楽を楽しみつつ、音楽家たちを応援していただけると幸いです。



左から 黒川真洋(チェロ)、山下響(ピアノ)、野本淳之亮(クラリネット)



左から 宇佐見優(ヴァイオリン)、兵藤雅晃(チェロ)、山内佑太(ヴィオラ)、金谷寧々(ヴァイオリン)



「ドキドキ・わくわく」が彩る
2019年のニューイヤー
ナマのオーケストラに触れる

豊橋の皆様、こんにちは。皆さんは生のオーケストラを聴いたことがありますか？

学校の音楽鑑賞や「まちかどコンサート」、はたまた、今回のような「ニューイヤーコンサート」？今はインターネットで「オーケストラ」と検索すれば、いくらでも「オーケストラがどんなものか」見ることが出来ますよね。

でも、「生のオーケストラ」は、どうでしょう？
舞台上に何十人もの人が黒い服を着て座っていて、指揮者の合図で一斉に音楽を奏で始める。一糸乱れぬ弦楽器の弓の動き、呼吸の気配まで伝わってくる管楽器の音色、一音入魂の打楽器の響き。なんだか難しそう…そんなふうに思うのでしょうか？

「全く、時間と現実の世界を忘れてしまいました。オーケストラの音楽と歌が、魂にやさしく火をともししてくれるようでした」(ミャンマーからの留学生より)

「まるで天国にいるよう。オーケストラの演奏を生で見て聴いたのは初めてでした。ホールに入った瞬間から胸がドキドキしました。会場に着くと、ステージの上に見たこともない大量の数の楽器が並べられていました。楽器ひとつひとつから流れる音を聴き、感動して涙が出る場面が何回もありました」(モンゴルからの留学生より)

「私は音楽について詳しくはわかりませんが、聴いているとストーリーが頭に浮かんできました。素敵な音楽を聴いて気分ももっと明るくなったような気がしました。一生忘れない思い出を、最愛の母と作ることができました」(モンゴルからの留学生より)

…こちらは、東京フィルの演奏会で「初めてオーケストラを見た・聴いた」という、海外からの留学生の皆さんからのコメントです。目の前に広がるきらめく光景、瑞々しく生まれる音楽への率直な感動がつづられていて、日々コンサートの現場で同じものに触れている私たちもなんだか心を揺さぶられたものでした。

私たちは、日常、さまざまな刺激を浴びていて、音楽が生まれる瞬間の「ナマ」の感動や、ひとつの空間を大勢の人と共有することで生まれる不思議な感情を、とも

すると思わせなくなっています。そのなかでもどうやらオーケストラは「難易度・高」の認定を受けている模様。オーケストラの曲は難しそう。演奏者もみんな同じに見えるし、しゃべったり歌ったりしないし。じっとしていなければならぬし。なんだか緊張する。

そんなふうに思っていたあなた。けれども、初めてのコンサートが終わった瞬間、あなたに訪れるのは「あっというまだった!」という感覚に違いありません。鍛え上げられた音楽家たちが一体になって一つの音楽を紡ぎ出す気迫が、呼吸が、そして音楽が、コンサートホールを満たし、あなたの心を揺さぶることでしょう。

今回のニューイヤーコンサートでは、指揮者の山下一史さん、ヴァイオリニストの大谷康子さんと共に、時代を超えて愛されるチャイコフスキーの作品を3つ、お届けします。チャイコフスキーの作品は、その華やかさ、美しい旋律から世界中で衰えぬ人気を博し、オペラやバレエ、交響曲はもちろん、映画や舞台、フィギュアスケート等でも取り上げられる名曲の宝庫ですから、どこかで耳にされたことがある方も多いことでしょう。

前半は、チャイコフスキーがロシアの文豪プーシキンの作品をもとに書いた傑作オペラ『エフゲニー・オネーギン』から、貴族たちの舞踏会を描いた名場面「ポロネーズ」、そして美しく哀調を帯びたメロディとヴァイオリン・ソロの名技が光る「ヴァイオリン協奏曲」を。後半には、堂々としたファンファーレに始まり、哀調を帯びた2楽章、弦楽器のはじけるようなピッツィカート(弦を指ではじく奏法)で始まる軽やかな3楽章、そしてふたたび金管楽器の咆哮に始まり、若々しい勢いに乗って駆け抜けるような4楽章まで、チャイコフスキーのさまざまな横顔を一気に楽しめる「交響曲第4番」です。

コンサートホールに足を踏み入れた瞬間のドキドキ・わくわく、ロシアを代表する作曲家チャイコフスキーの傑作群、そして日本を代表するオーケストラ・東京フィルの演奏。こんなに楽しい時間はありません。

2019年の始まりを飾るにふさわしいニューイヤーの演奏会。豊橋の皆様とお会いできるのを、楽しみにしています！ (東京フィルハーモニー交響楽団)

2019年の年明けには、華やかな「オール・チャイコフスキー・プログラム」をお楽しみいただきたいと思います。

幕開けは、歌劇「エフゲニー・オネーギン」よりポロネーズ。ポロネーズは、3拍子のポーランドの民族舞踊です。オペラでは貴族の邸宅での華やかな舞踏会の場面で演奏されます。

ヴァイオリン協奏曲は、メンデルスゾーンやベートーヴェンのそれらと並んで非常に演奏頻度の高い名曲です。ソリストには素晴らしいテクニックと音楽性を併せ持つ愛知県出身の大谷康子さんをお迎えします。

交響曲第4番は、フィギアスケートのバックミュージックとして織田信成さんを始め多くのスケーターに愛された曲でもあります。

1楽章の躍動感あふれるリズム、2楽章の哀愁に満ちたメロディー等々、チャイコフスキーの真骨頂ともいえる名曲です。

素晴らしい音響で定評のあるライブポート豊橋のコンサートホールで、皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。 山下一史(指揮)

この度久しぶりに豊橋で演奏させていただけるのを楽しみにしています。

私は3歳から愛知県に来まして有松に住み、ヴァイオリンを習い始めました。それ以来ヴァイオリンが大好きになり、もうすぐなんとデビュー44年になります。

今回のオール・チャイコフスキープログラム!哀愁のある美しいメロディーにみなさま、"胸きゅん"感動されることでしょう。また山下一史さん指揮東京フィルのスケール大きな迫力に圧倒されるでしょう。

私が演奏するヴァイオリン協奏曲は、このジャンルの音楽で一番人気の曲!心にじ〜んときてほろっとするようなメロディー、と同時にヴァイオリンの華麗なテクニックも見て、聴いていただけますよ。最後はとびっきり楽しく盛り上がりますからわくわく興奮されるでしょう。

何とんでも、「生」の音楽は臨場感もあり、すばらしい感動が生まれます。私は音楽を通して皆様に幸せな気持ちをお届けできればと思ひ活動しています。

当日会場でお会いできるのを楽しみにしています。 大谷康子(ヴァイオリン)



©Ai Ueda
山下一史[やました・かずふみ] / 桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。カラヤンのアシスタントを務め、ベルリン・フィル演奏会で急病のカラヤンの代役をジーンズ姿で指揮し話題となる。ヘルシンボリ響首席客演指揮者、九響常任指揮者、仙台フィル正指揮者などを歴任。シューマン: 歌劇「ゲルフェリア」日本舞台初演行うなど、着実に成果を上げていく指揮者として注目を浴びている。2016年4月より千葉交響楽団音楽監督。



©Masashige Ogata
大谷康子[おおたに・やすこ] / 2019年にデビュー44周年を迎え、ビエトロ・グアルネリ(1708年製)での深く温かい演奏は「歌うヴァイオリン」と評される。これまでにソロ活動はもとより、モスクワフィル、シュトゥットガルト室内管、スロヴァキアフィル等、国内外の著名なオーケストラと多数共演。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年共演し、2019年11月にも招聘が予定されている。CDも多数。BSチレ東(毎週土曜朝8時放送)「おんがく交差点」では司会・演奏を務める。2018年7月、自身初の著書「ヴァイオリニスト今日も走る」(KADO KAWA)を発売。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。(公財)練馬区文化振興協会理事。川崎市民文化大使。高知県観光特使。(公財)日本交響楽振興財団理事。オフィシャル・ホームページ <http://www.yasukoohtani.com>

東京フィルハーモニー交響楽団 TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA
1911年創立、日本のオーケストラとして最古の歴史をもち、メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。定期演奏会などの自主公演、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他での放送演奏、教育プログラムなどの国内活動をはじめ、海外公演でも高い評価を得ている。



©上野隆文

2018/1/19[土]16:00開演 / 会場=ライブポートとよはし コンサートホール
指揮=山下一史 / ヴァイオリン=大谷康子 / 管弦楽=東京フィルハーモニー交響楽団

「東京フィルハーモニー交響楽団
ニューイヤーコンサート
~オール・チャイコフスキー・プログラム~」



今年9月に、こちらプラットの主催で童話作家・工藤直子さんの「ねこはしる」という舞台を上演した。

私のいる劇団KAKUTAがこれまでもくりかえし朗読公演として上演してきたこの作品、今年からは音楽劇となってガラリとリニューアル。音楽はすべて音楽監督・扇谷研人氏の手がけたオリジナル楽曲で、何もかも新しい「ねこはしる」を創ることとなった。

とはいえ、過去に何度も再演してきた作品をもう一度白紙から創り直すというのは簡単なことじゃない。何せ私自身の頭の中にこれまでの演出イメージがびったり染みついてしまっている。

そこで、夏休みの間に豊橋で「ねこはしる」を題材にしたワークショップを行い、参加者の皆さんから出たアイデアを実際に舞台でも使用するという試みを行った。

これまでもワークショップは数多く行ってきたが、公然と「みなさんのアイデアをお借りします」というふれこみで行うのは初めて。演出家たるもの、人にお知恵を拝借するなんて良いのかしら?という頭があったのだと思

うし、もしかすると、出てきた案がまったく使えないなんて可能性もあるわけだ。

でも実際に取り組んでみると、とても面白かった。十人十色に感じ方の違う人たちから想像の翼を借り、新たにシーンをイメージする作業は、むしろ創作の原点に立ち返ることができた気がする。

この物語には、森に住む様々ないきものが登場する。野ウサギやカエルなどの動物もいれば、ケヤキの木や池の藻、風、といった自然そのものが、それぞれに自分の言葉を持った者たちとしてひとり語りをするのだ。

そこでケヤキやミツバチが話すシーンを実際につくるのだが、ひとりで木の役を演じるのではなく、グループに分かれて5、6人で一本の樹木となり表現する形を模索した。

グループによって木の姿は様々。太く根を張る木もあれば、数多くの枝が空に伸びている木もある。ほかにもミツバチの大群や、揺れるススキ野原、雪山の「なだれ」などを、人間の身体だけで作った。ワークショップで生まれた表現の数々は、本編でも実際に用いられた。

こうした表現は作り手だけでなく、観客の想像力も必要になる。見えない世界を想像してもらうのは、簡単ではない。だから最近では、舞台上での映像表現なども流行っていて、たしかにその写真を見せてしまえばわかりやすくイメージを共有できるということはある。でも、作り手と観客の想像力を結びつけることができれば、舞台上の世界は無限だ。そこが野原にも氷山にも海底にもなり、どんな動物でも表出させることができる。

実際に目に見える物よりも、人の想像力の方が、遙かに世界は広がっていくのだということを実感できる、これが演劇の面白さだと思う。

として、そんな想像世界にポンと飛び込める柔らかさという意味で、やはり子どもは最強なのである。

今回は、小学生を対象のこども向けワークショップも行い、子どもも大人と同じように、自然や生き物を作ってもらった。一日の終わりには「森のパーティー」と題して、全員が音楽に乗りながらどんどんリスやへびに変身し、「それぞれの生き物たちにとって生きるのに欠かせないこと」をテーマにした動きを見せていくという発表を行った。

魚にとって生きるのに欠かせないのは?「泳ぐ」こと。ウサギは?「跳ねる」こと。鮫は?「噛むこと」!何が欠かせないかということも、子どもたち全員と話しあって決めた。

面白かったのは、「リスは?」という問いかけに対して「欲張ること!」という答えが飛んできたときだ。本来は「頬張ること」が正しいのかも知れないが、言いながら子どもたちが、地面に落ちている実をどんどん口の中に放り込んでいくのを見て、なるほどリスは欲張りなのかも知れないなと思った。こういう想像の飛躍が楽しい。

こうして子どもたちがつくったパーティーのシーンも、本編の「ねこはしる」では『What is Life?(生きるってなに?)』というダンスナンバーになった。

だから今回の「ねこはしる」は間違いなく、豊橋の大人や子どもたちと一緒に創った作品だ。

公演は9月で終わってしまったけれど、また来年もこの豊橋で上演する予定。そのときはどうか、地元の方々にも観てほしい。

PURA PURA バラコ の 寄り道 ふらふら



ジェニー・シーレイ(グレイアイ・シアター・カンパニー芸術監督) / 演出家として活躍し2012年ロンドン・パラリンピック競技大会開会式では共同ディレクターを務めた。障害のあるプロの俳優やスタッフによる英国の劇団、グレイアイ・シアター・カンパニーの芸術監督を1997年から務め、手話と音声描写を効果的に取り入れた革新的な作品を創作、国内外で高い評価を得ているほか、日本、インド、スリランカ、ブラジルなどで様々なワークショップや講演を行っている。英国の舞台芸術セクターのアクセシビリティ向上に大きく寄与し、2009年大英帝国勲章MBEを受勲、2012年ロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会関連文化プログラムのひとつである「Unlimited」ではアーティストック・アドバイザーを務めた。

平田満【ひらた・みつる】 / 早稲田大学在学中、「つかこうへい事務所」旗揚げに参加。1982年、映画『蒲田行進曲』で第6回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞等多数の映画賞を受賞。2001年『ART』と『こんにちば、母さん』で第9回読売演劇大賞最優秀男優賞、14年『失望のむこうがわ』と『海をゆくもの』で第49回伊国屋演劇賞個人賞受賞。06年に企画プロデュース共同体「アル☆カンパニー」を立ち上げ、精力的に活動中。最近の主な出演として『荒れ野』、映画『光』、テレビ『西郷どん』など。

思っていますが、すぐに「飽きたよ」「そんなのさんざん見たよ」となってしまふ。それはAIやコンピューターグラフィックがやってくれているよ。あと何できるの?と言われたら、無理をして身体をむしばむアスリートや、自分の心を病んでまで表現しなきゃいけないアーティストのようにならざるを得ない。待てよ、それっておかしくない?お前、本当にそれで楽しいか?という感じがあるでしょ。喜びは、これから何かをつかもうという人たちは実感することだし、まあ、子供はみんな本来持っているのですが、どんどん社会的にスポイルされていく。本能的にそういうことを感じなければ、表現者になってはいけないんじゃないか。自分だけが優れていると思っているとしたら、その傲りとかぶりは間違っている。

その人が偉いのではなく、もともと持っているエネルギーが人を感動させるんです。一個人が崇め奉られるというのとは違う。才能プラス生命力があるから余計に素晴らしいのだと思います。

中島 — 今日3日目には、何かを完成するのですか。

平田 — 分らないです。昨日は、ジェニーさんは「今日は何も言いません」と。明日フィードバックしてまた明日考えるという感じで。回が進むに従って何かをするのではなく、その場にいる人たちの特性を見定めて、ここまでいかなきゃ、ではなく、今こうだからどこにいけるだろうか、ということでしょうか。初めてなので、うまくいか、いかないか分かりませんが、やってみますとおっしゃってました。なんかその姿勢はともいい。まだ2日しかたってないし。多分ワークショップの最後にお話がきつとあるので、それで「あ、なるほどな。」と合点がいくのではないのでしょうか。

切実なもの、お前は持ち合わせているか」と反省します。その人自身が持っている切実さ、僕はそれが一番アーティストにとって大事だと思います。容姿とか運動能力とか、芸術的なひらめきだけじゃない。関わっている人、見ている人、やっている人が、何かを体感したときに感じる喜びや、悲しみも含めた感動が伝わっていくことが、演劇をはじめとする舞台芸術やパフォーマンスアートにとって何より大事で、それこそジェニーさんのおっしゃる『希望』だと思っんです。

中島 — 違いと、それから不平等と平等とが、混在している世界観が一緒だから、あなたたちも、手を伸ばして、積極的にリクエストしてということですね。

平田 — こういう仕事をやってきた者として感じるのは、ジェニーさんをはじめ、障がい者がおやりになっている活動は、さっき切実さと言ったけど、違う言い方をすると生命力がある。

「健常者と思っている僕たちに、その生命力があるのか」「人に誇れるだけの生命力をお前は持っているか」。恥ずべきところがないとは言えない。満たされているだけに。これからネット社会では人間がどんどんダメになっていくかもしれない。AIに取って代られるかもしれないときに、何が一番といたら生命力ですよ。人間として生きていく。それは逆に、辛さとか、もどかしさを感じつつ、一生懸命自分をアピールし、あるいは人とつながろうとする、そういう人たちの力が可能性になっていくのではないかな。

そういう人たちと共同することによって、健常者であるが実は劣っている僕たちに、生命力が蘇るのではないのでしょうか。現在は何か僕らが上に立っているように

多様性を認め合うために、劇場や文化芸術ができることは?

ワークショップに参加して。平田満

聞き手 中島晴美 穂の国よはし芸術劇場 PLAT ミニアプローチ

中島 — よく3日間も参加していただきましたね。
平田 — 損得で考えれば『時は金なり』で効率重視になりがちですが、大事なことにアンテナをはっていたいし、時々はこの垣根を越えたワークショップに参加しないとイケないと思っていました。
中島 — 参加されて、印象はいかがですか。
平田 — ジェニーさんだけでなく、イギリスの演劇界からいらした方が培ってきたもの、あるいは、その活動の過程をたまたま垣間見ると、中身が詰まっている感じがします。日本でよくやりがちなように、最初にマニュアルや正解があるのとは違う。なぜやらなきゃいけないかを考えてきた歴史を感じる時があります。その根底にあるものが気になっていました。障がいを持っているとか、いろんな出自の人が、単なる『平等』でなく、それぞれが違うということをリスペクトする。ジェニーさんのようにご自身が障がいを持ってらっしゃる方の発言は、体感として僕らに伝わってきます。例えば僕ら自身も、広い意味で何か障がいがないかといったら、家族や経済的な事や、出身の事や、あるいは健康状態などで、コンプレックスを持っている人はあまたいると思うんです。
僕らプロだから競争があつて当たり前ですし、成功した人の業績を敬うということもある。確かにやったことに関しては素晴らしい。でも幕が下りたらノーサイドだよ、勝ち負けじゃないよと思います。ただだからといって、みんな同じ、というのでもない。実は車椅子に乗っている方や、障害のある方のほうが、リアリティーの真実さにおいて、僕らより勝っているんじゃないかと思うんです。「頑張ったね。」とか「偉いね。ヘレン・ケラーみたいだね。」と上から目線になりがちですが、「それだけの

- A. 体験ワークショップ 10月22日【月】
 - B. 創作ワークショップ 10月22日【月】～24日【水】
 - C. レクチャー・創作ワークショップの成果発表会&ディスカッション 10月24日【水】
- 会場=PLAT 主ホール

障がいのある人と共に創る演劇のワークショップ&レクチャー

穂の国よはし芸術劇場PLATでは、経験、障がいの有無、年齢、性別、国籍などに関係なく、さまざまな人が、ここで出会い、交流することができる劇場を目指します。今年度は、障がいがあるプロの俳優・演出家による英国の劇団「グレイアイ・シアター・カンパニー」の芸術監督であり、演出家として聴覚・視覚障がい者へのコミュニケーション手段である手話や音声解説を芸術表現の手段として作品の中に融合させた手法を取り入れ、障がいのある俳優たちとの活動で高い評価を得ているジェニー・シーレイ氏を招き、作る側にも観る側にも、聞こえない人や見えない人、身体の動きに制限がある人などがいることを前提とした演劇ワークショップと、自身のろう者としての経験と障がいのある方々との芸術活動をテーマとしたレクチャーを実施いたしました。



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演

マイセレクト 4

市民と創造する演劇「リア王ーとん底から笑ってリターン!ー」



H29年度 市民と創造する演劇『とよはしの街の物語』より

MONO「はななら」



MONO公演『ハテノク』より

12/24 [月・休] 13:30開演

立川志の輔 独演会

古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。●出演＝立川志の輔●前売予定枚数終了:当日券についてはお問い合わせ下さい。●会場＝PLAT主ホール

2019/1/19 [土] 16:00開演

「東京フィルハーモニー交響楽団

ニューイヤーコンサート

～オール・チャイコフスキー・プログラム～

愛知県出身の人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト大谷康子をソリストに迎え、フィギュアスケートなどでもお馴染みのチャイコフスキーの楽曲をお届けします。新年を華やかに彩るオーケストラの調べをお楽しみください。●指揮＝山下一史●ヴァイオリン＝大谷康子●管弦楽＝東京フィルハーモニー交響楽団●会場＝ライブポートとよはしコンサートホール●料金＝[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか

好評発売中

ライブポートとよはし



2019/2/15 [金] 19:00開演・16 [土] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

木ノ下歌舞伎

「糸井版 摂州合邦辻」

現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する木ノ下歌舞伎が『摂州合邦辻』を読み解き直し、現代に紡ぎ出します。市民と創造する演劇でもタグを組んだ木ノ下裕一と糸井幸之介による新作です。●作＝菅専助、若竹笛躬●監修・補綴＝木ノ下裕一●上演台本＝糸井幸之介、木ノ下裕一●演出・音楽＝糸井幸之介●出演＝内田慈、田川隼嗣、土居志央梨、大石将弘、伊東沙保、金子岳憲、西田夏奈子、武谷公雄ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般3,000円ほか

好評発売中



2019/3/2 [土]・3 [日] 14:30開演

市民と創造する演劇

「リア王ーとん底から笑ってリターン!ー」

シェイクスピアの四大悲劇の一つ『リア王』をもとに、公募による市民出演者・スタッフとプロのスタッフで舞台作品を創り上げます。●会員先行＝2019年1月5日(土)●一般発売＝2019年1月19日(土)●原作＝W.シェイクスピア●脚本＝樋口ミュ●上演台本・演出＝橋本昭博●ドラマツルク＝長島確●振付＝白神ももこ●出演＝オーディションで選ばれた一般市民●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般2,000円ほか

3月2日のみ



2019/3/16 [土]・17 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

MONO

「はななら」

笑って、その後少しの哀しい巧みな会話劇を真骨頂とするMONOがPLATに初登場。30周年を迎える2019年は、新メンバーを加え、装いも新たに「MONOらしい」お芝居をお届けします。●作・演出＝土田英生●出演＝水沼健、奥村泰彦、尾方宣久、金替康博、土田英生ほか●会場＝PLATアートスペース●料金＝[全席指定]一般3,000円ほか

関連企画

2019/1/20 [日] 13:00～16:30

公演に先立ち、作・演出の土田英生を招いて、MONOの過去の作品上演と、トークイベントを開催します。詳細・申込方法は劇場ホームページまで。

2019/4/20 [土] 17:00開演・21 [日] 13:00開演

「母と惑星について、および自転する女たちの記録」

第20回鶴屋南北戯曲賞受賞作品!蓬萊竜太の戯曲と栗山民也の演出により立ち上がる、女性4人をめぐる“命”の物語、待望の再演。●会員先行＝2019年1月12日(土)●一般発売＝2019年1月19日(土)●作＝蓬萊竜太●演出＝栗山民也●出演＝芳根京子 鈴木杏 田畑智子・キムラ緑子●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]7,500円ほか

2019/5/9 [木] 18:30開演

「かもめ」

6週間にも及ぶオーディションを経て決定した13人の俳優たちと、小川絵梨子による新訳『かもめ』をお贈りします。●会員先行＝2019年2月9日(土)●一般発売＝2019年2月23日(土)●作＝アントン・チェーホフ●翻訳＝小川絵梨子●演出＝鈴木裕美●出演＝朝海ひかる、須賀貴匡、岡本あずさ、渡邊りょうほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,000円ほか

2019/5/24 [金] 19:00開演

ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト

2019 豊橋公演

●会員先行＝2019年1月26日(土)●一般発売＝2019年1月27日(日)●指揮＝浮ヶ谷孝夫●ヴァイオリン＝辻田薫り●管弦楽＝ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト●会場＝ライブポートとよはしコンサートホール●料金＝[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか

ライブポートとよはし

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]
- オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

- 料金＝U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

プラットワンコインコンサート



河合雪子

プラットワンコインコンサート



Le Bois Quartet

古典遊学



松井今朝子

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場＝PLATアートスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]500円

12/19 [水] 14:00開演

「音の三原色～四季を巡って～」
Trio Glanz[トリオ・グランツ]野本淳之亮(クラリネット)、黒川真洋(チェロ)、山下響(ピアノ)

2019/1/5 [土] 14:00開演

「感じる、フルートの魅力」

河合雪子(フルート)

2019/2/6 [水] 14:00開演

「カルテットの調べ～ドイツ音楽にのせて～」

●会員・一般同時発売12月19日(水)

Le Bois Quartet[ル・ボワ・カルテット]

宇佐見優(ヴァイオリン)、金谷幸々(ヴァイオリン)、山内佑太(ヴィオラ)、兵藤雅晃(チェロ)

2019/3/29 [金] 11:30開演

「イタリア音楽の調べ」

●会員・一般同時発売12月19日(水)

松本純奈(オーボエ)

好評発売中

好評発売中

まちと劇場の技技交換所

劇場とまち、それぞれを裏で支えている技を、披露し、交換・共有する場、「まちと劇場の技技交換所」を開設します。ちょっとしたコツのようなものから、熟練した職人技まで、まずは劇場の技を体験してみてください。

●共通事項

申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォーム

2019/1/19 [土] 15:00～17:00

キックオフトークイベント

「『まちと劇場の技技交換所』のお知らせ」

まちの見方、リサーチ方法などを紹介しながら、まちと劇場を裏で支えている技の魅力についてお話しします。また、プロジェクトの概要も合わせてご紹介いたします。●講師＝長島確(翻訳家/ドラマツルク)ほか●会場＝PLAT創造活動室B●参加費＝無料●対象＝地域社会と芸術文化の関わりに興味のある方ならどなたでも●募集人数＝30名程度(先着順)

2019/1/18 [金] 18:00～21:00

照明ワークショップ「光の触り方研究室(入門編)」

触覚をヒントに、ちいさなもののライトアップを体験することで、日常にある光と影が生む物語に注目し、照らしたり照らされたりすることを楽しみます。●講師＝木藤歩(照明家)●会場＝PLAT創造活動室B●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上、舞台芸術に興味のある方●募集人数＝16名(先着順)

2019/1/20 [日] 13:00～16:00

映像ワークショップ「スマホでつくり、スマホを展示する映像作品」

照明を当てた白いスクリーン背景に、スマートフォンのカメラに向かって演じてみましょう。劇場での作業に必要な不可欠な「図面」を題材にして、一人一作品、短い映像作品を製作します。台本の作成から演技、撮影、さらに作品の展示・鑑賞までの一連の作業を体験できます。●講師＝山田晋平(舞台映像デザイナー)●会場＝PLAT主ホール●参加費＝1,000円●対象＝中学生以上で、舞台・映像製作に興味のある方●募集人数＝15名(先着順)

2019/1/20 [日] 18:00～21:00

照明ワークショップ「舞台照明技術講座(入門編)」

舞台芸術において欠かせない照明。どのようにして作品を照らしているのか?その仕組み～バラシまでを、PLAT主ホールにて駆け足で体験・実践していただく講座です。●講師＝池田俊晴(穂の国とよはし芸術劇場PLAT照明担当)●会場＝PLAT主ホール●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上で、舞台芸術に興味のある方●定員＝15名(先着順)



木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」

『ザ・空気』『ザ・空気ver.2』を連続上演した、作・演出の永井愛さんにインタビュー

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー
二兎社で 10月27日



『ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ』(左から)安田成美、松尾貴史 撮影:本間伸彦

『ザ・空気』—このタイトルに胸騒ぎを覚えた観客

次回作に取りかかっている劇作家・演出家の永井愛さんに、本年の公演『ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ』の反響について、偶然二兎社を訪れたこの公演の舞台美術プランナー、大田創さんにも加わっていただき、お話を伺いました。

中島— 大好評でしたね。『ザ・空気』(2017年)、『ザ・空気 ver.2』の連続上演を思い立ったきっかけは？
永井— 『ザ・空気』を書くために取材するうち、書ききれないことや、掘り下げたいことがでてきて、それが『ザ・空気 ver.2』を書く動機になりました。でも、もともとは「メディアと政治」のような題材が芝居として受け入れられるか、半信半疑でした。こういうことに問題意識を持つのは少数派で、世論調査をみても政治に関心のない人が多いでしょう。そういう層には、およそ観る気の起きない芝居だろうと思えたので、客席が埋まるか心配でした。でも、内容がわからないうちにチケットが売れ始めて。出演者の魅力もあったでしょうけど、「空気」ってタイトルが胸騒ぎを覚えさせたんじゃないでしょうか。自分に関係あるかもって。

アンケートやツイッターでは、「政治の話は難しいと思ったけど」とか、「テーマに興味はなかったけど」など、先に「けど」をつけた上で、「とても面白かった」と書いてくださる方が多かったです。それだけに終わらず、「今後は自分で政治をウォッチしたい」「もっとニュースを見ようと思った」という言葉が添えられて返ってきたのは嬉しいことでした。私の劇作は、何を書きたいかがはっきりわかって書くというより、「ここには何かがありそうだ」と見当

をつけて掘り始める、宝探しみたいなものなんですよ。「掘ったら何もありませんでした」ってことになるかもしれない。今回もそんな不安なスタートでしたが、書き進むうちに、本当に書きたい、書くべきことがわかってきました。支えられたのは、ファクトの重み。信じがたい出来事であっても、ただの絵空事じゃない。「わっ」とか「ウソ!」とか驚きながら、実際に起きた出来事を想像力でつなげたものが、今回のフィクションになりました。

中島— 舞台装置も意外な仕掛けがありましたね。
大田— 前回の『ザ・空気』の構想は作家から聞いていましたので、キーとなる台詞「出口はどこだ!」から、非常階段が窓越しに見えるようにしました。この非常階段がラストの地上につながります。『ザ・空気 ver.2』の場所は国会記者会館の屋上。間近に見える国会議事堂をどうするか?遠見で見えてるだけじゃつまらない気がして、国会が身をよじっているように、回転して出せないかと、いろいろやってみました。演出家から猛反対を受けました。でも、どうしても回したかった(笑)。

永井— 国会議事堂が回るって、技術的には可能だけど、戯曲にジャンプ力がないとおかしいでしょ?私の作品は時空を飛ぶような芝居じゃないし、反対しましたよ、最初は。ただ、時空を飛ばなくても、劇的な密度を深めていければ、ジャンプへの助走になる。最終的には回してもいいと思えたので、大田さんのアイデアがジャンプ力をつけてくれたのかもしれない(笑)。

中島— おふたりのお話を伺っていると、『ザ・空気 ver.3』の上演もありますね、きつと。
プラットフォームでの公演期待します。ありがとうございました。



永井愛[ながい あい] / 劇作家、演出家、二兎社主宰。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。身辺や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作を続けている。代表作に『ら抜ききの殺意』『見よ、飛行機の高く飛べるを』『こんにちは、母さん』『歌わせたい男たち』『書く女』『ザ・空気』など。鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、朝日舞台芸術賞秋元松代賞、芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。

SUPPORT

知識製造業
San-en 三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Tel.053-422-3628(代)

吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科 (不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 0539

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市花中町 160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市赤赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283 (代)

創業文政年間 数々く宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ-ク500 ソウの親子の看板が自印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 命あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市兵衛町四拾四番地 電話52-5514

本 豊川堂
本店・カルミア店・アピタ向山店・プリオ豊川店
セントファール・田原店・ささしまグループ・バルゲート店
ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にフィアंकオリティ
sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00~19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

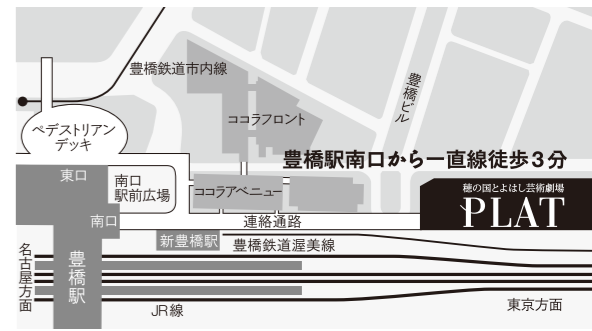
- 特典
- 公演情報をメールでご案内します。
 - インターネットでチケット予約ができます。
 - 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
平成30年12月29日(土)~平成31年1月2日(水)
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。
チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。
24時間対応いたしております。
休館中のチケットのお引き取りについてはご予約の際にご確認ください。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT